

# 識別は楽しい♡ ジュリン3種の冬羽

海老原美夫（さいたま市）

冬の楽しみのひとつは、地味なのに、姿がちらちらするだけで、とたんに枯野が豊かに見えてくるオオジュリンやコジュリンたち。

昨年は戸田市彩湖周辺でシベリアジュリンがいると評判になって多くの人が集まったけれども、この3種の冬羽は、結構難しい。

## ●識別一覧表

私自身の多少の観察経験も加えて1993年に第1版、2001年に若干訂正した第2版を作成、ホームページ(<http://23.tok2.com/ebi/>)でも公開しているのが、右ページの一覧表。万一間違っていれば明るく笑って誤魔化して、次々と訂正していきたいと考えている。

## ●オオジュリンかコジュリンか

私は先ず足指（趾）の色を見る。黒かったらオオジュリン、黒くなかったらコジュリンと見当をつける。

次に見るのは嘴の形と色。「嘴峰(しほう)」というのは、嘴の上側ラインのこと。このラインがプクンと丸っぽく見えたらオオジュリン。丸っぽく見えなかったら、コジュリン。

この2点でどちらかに見当がついたら、あとは腰の色とか頭央線の有無とかを見ていて、確認すればよい。

## ●餌も、住む場所も違う

オオジュリンは葦の皮をバリバリ剥いて、中にひそむカイガラムシを食べる。その為、嘴峰が丸く縦に分厚い頑丈な嘴を持っている。

コジュリンは、草の種などを多くついでるのでそれほど頑丈な嘴は必要なく、ついでみやすい形の嘴を持っている。

だから、オオジュリンは葦原に住んでいるが、コジュリンは、それより丈の低い草原と葦が入り混じるような場所にいる。

もちろん鳥のことだからいろいろ移動もするけれども、そういう所にいることが多いということ。

風の強い日に、「地上に降りて採餌しているからシベリアジュリン」と説明している人に出会ったことがある。が、オオジュリンだって地上に降りることもある。あまり固定的に考えすぎるのは、ちょっとあぶない。

## ●顔の模様などは

冬羽といっても、冬のはじめには夏羽が残っていたり、春近くには夏羽が出始めていたり、段階は様々で、それに惑わされると識別を誤ることがある。

「胸に菱形の模様が見えるから、シベリアジュリンだ」という説明も聞いたけれども、それは識別ポイントにはならない。ひとつの図鑑のイラストや写真をあまり細かく見過ぎると、そんな落とし穴に陥ることもあるかもしれない。

## ●シベリアジュリンは

薄い翼帯2本が、先ず最初の手掛かり。

最も特徴的なのが、嘴。嘴峰は直線的で、上嘴は黒く下嘴は淡色。コントラストが強い。

嘴峰が直線的ということは、草の種などをついでむ傾向がコジュリンより更に強いということで、住む場所も、丈の低い草原に依存することが多い。

と言っても、繰り返しになるけれども、例えば中国の北戴河で、茶色の濃いシベリアジュリンが、葦原にいるのを見たこともある。単純には言い切れない。

尾が短く見えることは大切な手掛かりだが、小雨覆の色は野外では見分けにくいので、重大な識別ポイントにはできないだろう。

茶色のシベリアジュリンもいるし、白っぽいオオジュリンもいる。要するにひとつの特徴にとらわれることなく、手掛かりの軽重も考えながら、総合的に見るのが最も必要ではないかと思う。

だから、識別って楽しいよ♡

### ジュリン3種の冬羽の識別

|      | オオジュリン                          | コジュリン                               | シベリアジュリン   |
|------|---------------------------------|-------------------------------------|--|
| 全長   | 16cm                            | 14.5cm                              | 14cm   |
| 色調   | 茶褐色                             | 茶褐色                                 | 淡い茶褐色  |
| 嘴    | 嘴峰湾曲 上嘴と下嘴のコントラストは、シベリアジュリンより弱い | 嘴峰は他2種の間 雄は上下のコントラストが比較的強くて、雌は上下共淡色 | 嘴峰は直線的 上嘴は黒く下嘴は淡色 コントラストが強い                            |
| 頭央線  | ない                              | ある                                  | ない   |
| 小雨覆  | 赤褐色                             | 灰色 バフ色を帯びている個体もいる                   | 雄成鳥=暗青灰色 雄幼鳥=バフ色がかった灰色 雌成鳥=灰褐色 雌幼鳥=暗灰褐色 野外で確実に見ることは難しい |
| 翼帯   | 見えない                            | 見えない                                | 顕著な2本の淡色翼帯   |
| 胸脇   | 薄い縦すじ                           | 成鳥=不明瞭な淡黄色の縦斑<br>幼鳥=黒褐色の縦斑          | 成鳥=縦斑は細くて目立たない幼鳥=顕著な黒い縦斑                               |
| 腰    | 灰色みが強い                          | 赤褐色                                 | 淡色   |
| 尾の長さ | 特に短くは見えない                       | 特に短くは見えない                           | 短く見える  |
| 足    | 黒褐色 趾がふ趾より特に黒みが強い               | ピンク色                                | 他2種の間 趾がふ趾より特に黒くはない                                    |
| 生息場所 | 葦原                              | 葦原や草原                               | 草原   |

参考文献 高野伸二1980 野鳥識別ハンドブック (財)日本野鳥の会  
 茂田重光1992 形態と識別11オオジュリン BIRDER(3):46-51  
 茂田重光1992 形態と識別12シベリアジュリン BIRDER(4):46-50  
 茂田重光1992 形態と識別13コジュリン BIRDER(6):46-51

写真左下オオジュリン、右上コジュリン、右下シベリアジュリン

いずれもさいたま市と戸田市の彩湖周辺で海老原撮影。シベリアジュリンは1993年3月・県内唯一の確認記録。

